

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	金沢工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カナザワコウギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F117310105460
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	石川県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップ実習
	学部・研究科等名	全学部・全学科
	担当教職員名・役職	進路部長 教授 徳永光晴 、 進路開発センター 次長 二飯田一貴
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	83
	受入企業等数	83
	受入企業等名	(株)大林組、澁谷工業(株)、(株)マイナビ等
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	本科目は、派遣先企業にて実際の業務に従事する就業体験、企業課題に取り組む課題解決、製造現場等で行なう実習等を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位

	2-5.上記回答内容に関する詳細	全学部全学科の1年次生～3年次生を対象としている選択科目である。事前講義を受講し、夏期休暇中に5日間以上のインターンシップに参加し、事後講義を受講することと、就業体験を含めて計50時間以上の学習、それぞれの課題提出により総合的に評価し、単位（2単位）認定している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	専用の教材「KITインターンシップガイドブック」を使用して事前学習を行う。具体的には、派遣先企業研究、参加目的の整理及び社会人基礎力（経産省提唱）を本学独自で作成したループブックを用いて事前評価、目標設定を行う。また、派遣先でのマナーや、企業での機密情報の順守について学習する。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	派遣先企業で作成した日報、報告書及び事前講義で作成した社会人基礎力に対する企業担当者からの評価結果を基に、グループワーク、発表を行う。また各自が今後の修学計画について策定していく。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	当該年度は、コロナ禍のため、企業訪問は行えていない。	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	
4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている	

要素④		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	経産省が提唱する社会人基礎力（3つの能力、12の能力要素）を基に作成した評価指標、ルーブリックにより学生のインターンシップ参加前と参加後の自己評価により、学生の成長度合を確認している。また企業担当者の評価結果も参考にして確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	原則は、実施期間5日間以上としている。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	実施企業等との調整により実施することがある。
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	実施企業等との調整により実施することがある。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	原則として、連続5日間以上のインターンシップを対象としている。ただし、同一企業で夏期休暇中の非連続な5日間も認めている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	企業担当者とインターンシップ参加学生とが参加するワークショップを実施している。企業担当者と学生でより良いインターンシップについてグループワークを行い、今後のインターンシップの参考としている。
6-3.上記回答内容に関する詳細	企業担当者にアンケートを実施している。社会人基礎力の各能力要素について重要視する項目について調査した結果を学生に提示している。また、学生が事前講義の際に自己評価、目標設定した項目について企業担当者から評価を受けている。	

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.kanazawa-it.ac.jp/intern/index.html
問い合わせ先	大学等名	金沢工業大学
	担当部署名	進路開発センター
	担当者役職名	次長
	担当者氏名	二飯田 一貴
	電話番号	076-294-6985
	メールアドレス	intern@kanazawa-it.ac.jp